

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

# 5



## ■シリーズ「The 教育課程 ①」

◎特別活動 防府市立勝間小学校 校長 梶田 崇晴

### ◎特別活動 一修学旅行一

岩国市立修成小学校	教諭	林 誉子		
岩国市立修成小学校	6年	井上 蓮、	冲原 正悟	
		林 龍希、	藤本 弥優	
長門市立菱海中学校	教諭	中野 大輔		
長門市立菱海中学校	3年	大嶺 拓実		

### ◎特別活動 一春の運動会一

山口市立小郡小学校	教諭	石田 道秀		
山口市立小郡小学校	6年	目 優作、	岩崎 真碧	
		坂東 璃子		

■支部の活動

宇部支部、下関支部、豊浦支部

■ご案内

## 一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：井上 洋／編集長：山本晃久

平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品

「ツツシ」

萩市立川上中学校 1年生(受賞時) 阿武 怜司

### あなたの アクションは...

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

### 集団や社会の形成者としての 見方・考え方を育てる特別活動の在り方



防府市立勝間小学校

校長 髙田 崇晴

#### 新しい特別活動に求められていること

このたび改訂された教育課程では、「子どもたちが「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使っているか」のように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということまで踏み込んで、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものすべてを、いかに総合的に育んでいくかということが視点としてあげられています。そして、「学校はひとつの社会」という学校の意義から、「社会に開かれた教育課程」が新学習指導要領の理念として掲げられました。

特別活動という領域は、他の教科等と違って、子どもたちの日常生活を題材とし、リアリティを通して学ぶところに大きな特徴があります。そのため、このたび「主体的対話的な学び」が求められることになりましたが、これこそ、教育課程全体が特別活動的な学びを大事にしていかなければならないことを意味していると考えられるようになっています。

#### 特別活動に課せられた課題

しかし、特別活動の実践に対する課題には大きいものがあります。平成二十年度改訂の際、中央教育審議会答申に「特別活動の実践は子どもたちが学校生活を楽しむことに大きく寄与できたが、育てるべき資質や



能力を十分身につけることができるとは言い難い」という課題が示されたのです。お楽しみ会に終始したり教科の補充の時間に使ったりする特別活動からの脱却が求められているということが言えます。

#### 改訂の基本的な方向性

特別活動は、子どもたちが所属する集団で、話し合いによって課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指していく活動です。このような特質を踏まえ、特別活動を指導する上で「人間関係形成、社会参画、自己実現」の三つが重要な視点として示されました。

また、複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点から、自治的能力を育てることがこれまで以上に求められていることを踏まえ、キャリア教育の要としての位置づけがなされました。

#### ① 「人間関係形成」

「人間関係形成」は、集団の中で、人間関係を自主的・実践的によりよいものへと形成するという視点です。ここで必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなどの学習過程全体を通して、人と人との関係性の中で育まれます。子どもたちが将来出て行く社会は、違いや多様性が集まっ



たものです。そのため、学校という場において、そういう違いや多様性に、いかに歩み寄って、それを乗り越えていくのかを学ぶ場として特別活動が重要な位置を占めることになるといえます。

#### ② 「社会参画」

「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点です。そのために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的・自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育てられます。つまり、学校という場において、個と集団の関わりを学ばせる経験が必要となるわけです。その中で、自分もよくみんなもよいとする合意形成の在り方を身につけさせることが、キャリア教育にも通じる基礎的・汎用的能力を育てることにつながると考えられます。

#### ③ 「自己実現」

「自己実現」は、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点です。そのために必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力など、集団の中において、現在及び将来に関わる課題に取り組み中で育てられます。子どもたちは、学校生活において様々な問題に直面します。その時、自分の問題を自分で見つけ、自ら解決していこうとする経験を積み重ねることが大切なのです。そのために、学級活動や日常生活において自己指導能力を育てるよう取り組んでいかなければなりません。



#### 「自分たちの生活は自分たちでよくしていく」力

特別活動は、これからの学校教育において、集団や社会の形成者としての見方・考え方を育て、社会と関わる力を身につけさせていくために重要な位置にあります。そのことを意識しながら、「自分たちの生活は自分たちでよくしていく」力を身につけさせるよう取り組んでいかなければならないのです。

深まる交流



岩国市立修成小学校

教諭 林 啓子

修成小学校の児童は、九月に萩、下関方面へ「六校連合修学旅行」に行きます。以前は、旧周東町内の小規模校五校で連合修学旅行を実施していましたが、周東中校区内すべての六年生の交流が深まるようにと昨年度から六校連合で実施することになりました。

昨年度は、初めての実施であったため、六校の小学校から担当教職員が集まり、事前学習や当日の行程について細かに打合せを行いました。一学期には、高森小学校に五校の児童が集まって、交流学习を行いました。最初は緊張した面持ちだった小規模校の児童たちも、回を重ねるごとに集団で活動する楽しさを味わうことができました。

九月には、事前学習として六校の児童混合で編成した学習班で萩、城下町散策のコースを話し合いました。慣れないメンバーに自分の意見を伝えたり、話し合ったり折り合いをつけたりする活動は、小規模校ではなかなか経験することができません。この話し合いを通して、お互いをより理解することができました。

修学旅行当日は、事前に決めたコースを学習班ごとに散策しました。引率教職員が多く、児童の安全管理に

十分配慮することができるとも、六校連合で実施するメリットです。五つのチェックポイントに各校の担当が待機し、各班の行程を確認することで、全児童が充実した活動を行うことができました。

このような取組を経て、新たな友達関係を築き、広げることができた本校の六年生は、四月の中学校進学を心待ちにしていました。今年度の六年生にも、事前学習や修学旅行を通してたくさんの方々とつながり、交流を深めていってほしいと思います。



楽しみな班行動

岩国市立修成小学校



六年 井上 蓮

ぼくは、六校で行く修学旅行の良いところは、知らない人ともいっ

しよに、行動や生活ができることだと思います。特に、ホテルの部屋で夜みんなと話して過ごすことが楽しみです。五年生で参加した宿泊体験学習でも、みんなで集団行動や野外炊事をしたときに、協力が難しいところがありました。またそれがとても大切だということを知りました。だから、修学旅行でも、みんなで協力して班行動をしたいと思っています。



六年 沖原 正悟

修学旅行については、去年の六年生がいろいろと話してくれましたが、

ぼくが一番楽しみなことは、他の学校の人と一緒に班行動をすることです。班行動では、いろんな学校と交流を深めていけるので良いと思います。みんなで計画を立てたり、仲良くしゃべったりしながら、楽しく班行動ができると思います。ホテルの部屋で話すことも楽しみです。早く修学旅行に行きたいです。



六年 林 龍希

ぼくは、いろんな学校と一緒に修学旅行にいくと、知らない人もいる

かもしれないけれど、いろいろな人と仲良くなるのが楽しみです。去年の六年生から修学旅行の話を聞いたとき、一緒に交流を深めるために、バスで盛り上げ役のような人がいたと言っていたので、ぼくもそんな風に盛り上げて、いろんな人と仲良しになつて、友達をたくさん増やしていきたいと思っています。



六年 藤本 弥優

わたし達は、四年生の時から交流学習に参加しています。交流を重ね

て修学旅行に参加すると、先に友達を作つて安心して参加できることが良いと思います。去年の宿泊体験学習では、なくし物をして困っているときに、違う学校の友達が貸してくれたので助かりました。修学旅行でも、ほかの小学校の人と楽しくお話をして、交流を深めたいです。そして、新しい友達を作つて、中学校でも仲良くなれると思います。

修学旅行がもつ「ミリヨク」



長門市立菱海中学校  
教諭 中野 大輔

本校の修学旅行は、京都を中心とした京阪神地区という異空間への旅である。そこでの名所旧跡巡りや班別研修、テーマパークでの自由行動が主なプログラムである。

これまで私は、三年生の担任をする機会が多く、その度に修学旅行の引率をさせていただいた。引率回数を重ねるにつれ、修学旅行の中で生徒たちが見せる様々な表情の観察が、私の楽しみの一つとなった。

学校集合時は、大きな期待と少しの不安が入り混じった表情を見せる。しかし、バスや新幹線に乗り込んでいる最中は、先の不安はどこ吹く風、すでに生徒たちは修学旅行を満喫している表情に変わる。目的地に到着後の名所旧跡めぐりでは、教科書や資料の写真で見たものの実物を間近にし、目を丸くして興味津々、感動と好奇心あふれる表情となる。

二日目の班別研修、チェックポイントで待機をしていると、私を見つけて息を切らして駆け寄り、チェックを受けたときの安堵の表情。中には、体調を崩した仲間を心配する優しい表情を見ることが出来る。

さて、私が一番好きな表情は、修学旅行の終末で見ることが出来るお土産選びの時の表情である。生徒た

ちは、家族や親戚、部活動の後輩など、相手の顔を思い描きつつ、それぞれに合ったお土産を品定めする。このとき生徒たちは、人を想う穏やかで温かな表情を見せる。

この瞬間、修学旅行という異空間の中で、生徒たちは自分が多くの人々に囲まれていることを改めて実感し、感謝の念を抱いているのではないかと思うのである。自分を囲む人々に思いを馳せることは、他者に向けた優しさや思いやりの心を養う過程だと考え

このように考えるのも、修学旅行がもつ特別活動としての「ミリヨク」の一つではなからうか。



修学旅行で期待する「三つの「あい」



長門市立菱海中学校  
三年 大塚 拓実

僕たち菱海中学校三年生は、修学旅行で五月十二日〜十四日の三日間、京都と大阪を訪れます。僕は、修学旅行をただ楽しむだけでなく、思い出に残る充実したものにするために、三つの目的をもって行きたいと思っています。

一つ目は、「出会い」です。京都の歴史、自然、文化、芸術、町並みと出会いたいのです。二つ目は、「ふれあい」です。旅先の人（乗り物、旅館、体験先、店、通りすがりの人）とのふれあい（コミュニケーション）を大切にしたいです。三つ目は、「感じあい」です。旅を共にする仲間と、発見や感動を分かち合いたいのです。

修学旅行の一日目と二日目は、京都を訪ねテーマごとにグループに分かれて研修したり、体験したりする時間があります。

研修では、特に京都の建築物や歴史に興味があるので、それらを見てまわって、様々な古き良きものに「出会い」たいと思います。寝殿造と禅宗様を融合させた様式を持ち、北山文化の特色を呈した義満が建てた金閣（鹿苑寺）、書院造の様式を持ち、東山文化の特色を呈した義政が建てた銀閣（慈照寺）、大政奉還が行われた二条城等を訪れ、社会の授業で学習した知識をもとにして、実物を見て歴史

を感じ、感動を味わいたいと思っています。

体験では、伝統工芸の扇子作りや京菓子作りをやってみたくと思っています。体験先の職人さんとの「ふれあい」を大切にして、伝統を守る思いや技術について学ぶつもりです。

三日目は、大阪のユニバーサル・スタジオジャパンに行きます。僕は、三歳くらいの頃に家族と訪れ、写真はありますが、記憶に残っていません。だから、今回は友達と一緒に発見や楽しさを思う存分「感じあい」素晴らしい思い出を作りたいと楽しみにしています。

非日常的な異空間で展開する修学旅行。どんな出会い・ふれあい・感じあいがあるのか、今から期待に胸が膨らみます。



団結力心をつないで



山口市立小郡小学校

教師 石田 道秀

五月。クラスが馴染んできたこの頃、春運動会の練習が本格化します。本校の運動会では、仲間と協力して目標を達成する喜びを味わい、団結力を高めることをねらいの一つとして取り組みを進めています。そのため、高学年を中心として、運動会をどう運営していくか話し合いがスタートします。

特に高学年は、新しい環境の中でいきなり全校を動かす立場になります。最初は、高学年としての自覚に乏しく、話し合いも上手くまとまりません。時間的な制約もあります。しかし、限られた枠の中で、より良いものを完成させようという思いはどの子ももっています。子どもたちは何度も話し合いを重ね、その中でお互いを知り、団結力を高めていきます。

子どもだけでなく、教員も同様です。運動会に向けて、子どもたちの指導や支援についての話し合いを重ねます。そのことが同学年や学校全体のチームワークを高めていきます。運動会当日の開会式に並ぶ子どもたちの表情には、四月に比べて一段とたくましい雰囲気を感じます。自然と声をかけ合い、演技を成功させていく姿、係活動で率先して動き、

責任をもつて自分の役割を果たそうとする姿に成長を感じます。入学したばかりの一年生は、集団行動にも慣れ、学校への所属感が生まれてきます。四月の頃よりも、表情や動きに格段の成長を見ることができ、

全ての競技が終わり閉会式を迎えると、勝つても負けてもお互いの組が大きな拍手を送る姿が印象的です。短い期間で仲間と協力し、運動会という行事を成功させた達成感や、新たに生まれた連帯感によるものだと感じます。教室に戻ると、そこには子どもたちのやりきったという満足気な表情が並びます。お互いが団結し、心をつなぐ春運動会。この経験を通して、一年間子どもたちがさらなる成長できるような指導に取り組んでいきます。



心をつなぐ春運動会。この経験を通して、一年間子どもたちがさらなる成長できるような指導に取り組んでいきます。

最上級生としての思い

山口市立小郡小学校



六年 目 優作

中学年の頃までの運動会のイメージは、「楽しい」ということしかありませんでしたが、五年生の運動会が終わった時に「大変そう」に変わりました。それは、六年生が色々な係に分かれて、テキパキと忙しそうに動いているのを間近に見たからです。でも、最後に六年生が、「悔いの残らない運動会になって良かった」と言うのを聞きました。ぼくも今年は、そう言えるように、力を発揮したいです。



六年 岩崎 真碧

私は、今年の運動会で挑戦したいことが二つあります。一つ目は、応援団長になって、大声を出して応援することです。父と姉も団長でした。姉の団長姿を見た時、かっこいいと思っただけでしたが、二つ目は、運営する側になって、よりスムーズに運動会が行われるようにすることです。去年までは、すべて上級生に任せていたけれど、今度は、私たちが六年生として、運動会を成功させたいと思います。



六年 坂東 璃子

これまでの運動会で、上級生や友達、先生方からたくさんの言葉をもらってとても励まされ、最後までやりきることができました。今年は、最高学年として、下級生や友達との支えになりたいです。それと、競技や係の活動など、何でも一生懸命にやりたいです。一生懸命に取り組めば、勝つても負けても感動が必ずあると思います。小学校最後の運動会を最高のものに使いたいです。



宇部支部

## 子どもの豊かな心の育ちを考える会

平成30年1月27日(土) 13時30分～16時  
宇部市多世代ふれあいセンター 2階ふれあいホール

### オープニング

### シルバーコーラスきらめき会

☆三つのわらべうた ☆翼をください



### 開会あいさつ



#### 開会挨拶

山口県教育会宇部支部  
支部長 西本 次男  
青少年に係る様々な問題は、  
私たち大人の問題を映し出して  
いるのではないのでしょうか。私  
たち大人が「心の力」を高めるように真摯に  
取り組むことが、子どもたちの「心の力」を  
高めていくことになるのではないのでしょうか。  
これまでの本会の思いを踏襲しながら、今  
年から会の名称を変更しました。これまでと  
同じく「子どもたちに思いやりの心、優しい  
心を育み、たくましく生きる豊かな心」を共  
に育ててまいりましょう。(要約)



#### 来賓挨拶 宇部市教育委員会

教育長 野口 政吾 様

宇部市では英語教育やICT教育等に力を入  
れていますが、同時に心の教育にもしっか  
り取り組まなければいけないと思っています。  
地域や関係者の努力により、学校は、か  
つてより落ち着き、問題も激減していますが、不登校やい  
じめ等の内にこもる状況が課題となっています。解決のた  
めには、道徳や自然、芸術や文化に触れる豊かな体験や地  
域の方々と関わることで自己有用感を高めることが重要で  
す。本会の合唱や保育園、小中学校の園児、児童生徒によ  
る心をゆさぶる詩の朗読などの取組に敬意を表すとともに、  
このような活動をますます広げられることを期待しています。  
(要約)

### 幼児、小・中学生による詩の朗読



小羽山保育園児24名、川上小学校児童4名、船木小学校児童  
5名、常盤中学校生徒1名、西岐波中学校生徒1名が、思い  
を込めて詩の朗読を行いました。



### 講演「子どもたちに伝えたい歌」

講師の矢田部音楽教室、矢田部真紀  
子先生により、16曲の童謡や歌唱に  
ついて、その曲が生まれた背景や歴  
史、言葉の美しさや情感、情景の豊  
かさを紹介いただきながら来場者と  
ともに歌い、会場全体が温かい雰  
囲気に包まれました。



#### 【朗読された詩】(抜粋)

☆おおきくなるっていうことは  
☆あさ ☆てんとうむし ☆支度  
☆わたしと小鳥とすずと ☆生きる  
☆ことばはやさしく美しくびぎよく

#### 【紹介された歌】(抜粋)

☆春の小川 ☆朧月夜 ☆夏は来ぬ  
☆紅葉 ☆冬景色 ☆われは海の子  
☆里の秋 ☆冬の夜 ☆アンパンマン  
☆あんたがたどこさ ☆静かな湖畔

豊下  
浦開  
支部支  
部

# 「下関地区教育振興フォーラム」兼「教育シンポ下関」

郷土下関の教育を考える  
～今、絆を紡ぐ～

平成30年2月3日(土) 13時30分～16時  
下関市立川中公民館 4階講堂

## 開会行事

〈主催者挨拶〉

山口県教育会 下関支部



支部長 藤永 悦朗

今や多種多様なスポーツ、企業の関係者、科学者、研修者が英語で情報交換や協議をする時代です。本会が今後の英語教育の充実のための参考となることを願っています。(後段のみ要約)

〈主催者挨拶〉

山口県教育会 副会長 倉増 誠彦



今回は、「生き抜く力の育ち」をテーマに英語教育の充実をめざしてシンポジウムが展開されます。それぞれの立場で子どもの生き抜く力を育てる活動に活かしていただくよう願っています。(後段のみ要約)

〈来賓祝辞〉

下関市副市長 芳田 直樹 様



下関は深い歴史と関門海峡を中心としたすばらしい景観をもつまちです。下関を好きになってもらいたいと願っています。本会が、ふるさと下関への愛着と誇りを育てるために大変意義深く価値ある会として成果をあげられるよう期待しています。(後段のみ要約)

〈来賓祝辞〉

下関市教育委員会  
教育部次長 井上 成人 様



本会のテーマは下関市の教育理念とながっているとともに、英語教育の充実が本市の重点施策の一つでもあり、時宜を得た取組と捉えています。充実した会となることを期待しています。(後段のみ要約)

## 子どものかがやき

下関市立長成中学校吹奏楽部7名のみなさんの素晴らしいアンサンブルが披露されました。

【曲目】☆海のマーチ ☆喜びの歌 ☆夢みる人 ☆ふたつの伝承歌



## シンポジウム

テーマ「生き抜く力」の育ちを見つめる

— 小・中連携をふまえた英語教育の充実 —

注) 記載内容は、たくさんいただいた発言のごく一部要約です。

〈コーディネーター〉

下関市立栗野小学校  
校長 辻本 紳一朗 様



- ・英語教育について語ってください。
- ・英語って大切だ、英語教育があつてよかったと思う点をお話してください。
- ・学校の現状はどうですか？

〈シンポジスト〉

下関市教育委員会教育部教育研修課  
主査 菅野 貴光 様



- ・これまでの外国語活動の成果や課題を踏まえて教育課程が始まります。
- ・いくらAIが発達しても、人とのつながりや温かさはAIでは醸成できません。

〈シンポジスト〉

下関市立豊浦小学校  
英語教育推進教員 マレル 由佳 様



- ・学校では目標を定めて計画的に英語を学んでいく仕組みを創ることが大切です。
- ・広い心で接することができるように様々なことに目を向けてほしいと願っています。

〈シンポジスト〉

山口県立下関中等教育学校  
教諭 藤本 義昭 様



- ・中学校ではもっと話したり思いを伝えたりする機会が必要だと思います。
- ・外国語を学ぶためには、自国のことをもっと知ることが大切です。

〈シンポジスト〉

下関市教育委員会  
ALT レサール ステファニー 様



- ・自分自身を表現することは、コミュニケーションの第一歩です。
- ・英語が話せれば、多くの情報を得ることもでき、選択肢やチャンスも増えます。

# 第9回教育維新・青年教師の集い 参加者募集

- 1 趣 旨 教育維新の強い思いをもつ小・中学校の青年教師が集い、授業実践及び授業構想を検討し合うことをとおして、「明日を拓く豊かな授業」を構築する。
- 2 主 催 一般財団法人山口県教育会
- 3 期 日 平成30年8月6日(月)・7日(火) 1泊2日
- 4 会 場 パルトピアやまぐち 山口市神田町1-80 (TEL) 083-923-6988
- 5 研究教科 小・中学校社会科 一小学校「歴史と人々の生活」中学校「歴史的分野」—  
テーマ「公民としての資質・能力の基礎を育むこれからの歴史学習」を求めて
- 6 参加者 小学校教諭6人程度 中学校教諭6人程度 計12人程度  
※教職経験10年未満の教諭とします。
- 7 参加経費 交通費、宿泊費等の必要経費はすべて主催者が負担します。
- 8 研修日程 8月6日(月) 8月7日(火)

時刻	研 修 内 容	会 場	時刻	研 修 内 容	会 場
9:30	開会行事	パルトピア やまぐち 中ホール	9:00	【小学校と中学校の2部会に分かれる】	パルトピア やまぐち 中ホール
10:00	【小・中混合の2グループに分かれる】 実践例の発表		10:30	模擬授業の指導案作成 模擬授業	
12:00	昼食・休憩		12:00	昼食・休憩	
13:00	実践例の発表 (午前の続き)		13:00	模擬授業 (午前の続き)	
15:00	発表についての研究協議		14:45	研究協議・指導助言	
16:15	指導助言		15:30	全体会・閉会行事	
18:30	夕食・意見交換会				

- 9 参加申込 A4版用紙に、①氏名 ②性別 ③教職経験年数 ④所属学校名 ⑤応募の目的を記入して、(一財)山口県教育会へFAX送信 (FAX 083-922-5768) してください。  
\*応募用紙の様式は、(一財)山口県教育会のホームページに掲載しています。  
\*申込多数の場合は、主催者が「⑤応募の目的」を比較検討して決定します。
- 10 申込締切 平成30年6月8日(金)
- 11 問 合 先 (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL) 083-922-0383 (FAX) 083-922-5768

# 第70回日本連合教育会研究大会桐生大会 参加者募集

- 1 大会主題 人や社会との関わりの中で 思考・判断・表現する力を高め、  
心豊かに、創造的に生きる子供の育成
- 2 主 催 日本連合教育会 桐生市教育会
- 3 期 日 平成30年8月23日(木)～24日(金)
- 4 会 場 桐生市市民文化会館〔桐生市織姫町2-5 (TEL) 0277-40-1500〕
- 5 大会日程

	9:30	10:20	10:50	12:10	12:30	13:30	16:20
8月24日(金)	開会式	全体会	記念講演	アトラクション	移動・昼食	分科会	

記念講演 演題「楽しい未来の低炭素社会」 講師 宝田 恭之 様(群馬大学大学院 特任教授)  
アトラクション 「八木節」 桐生市内小学校金管バンドクラブ各校代表者演奏  
分科会 ①国語 ②社会 ③算数・数学 ④理科 ⑤生活、総合的な学習の時間 ⑥音楽  
⑦図画工作、美術 ⑧家庭、技術・家庭 ⑨体育、保健体育 ⑩外国語活動、外国語  
⑪道徳 ⑫特別活動 ⑬特別支援教育 ⑭幼児教育 ⑮健康教育 ⑯学校事務

- 6 参加日程 (列車・貸切バス移動)  
8月23日(木) 新山口駅 → 東京駅 → 群馬県内視察研修 → 桐生市内宿泊施設  
8月24日(金) [大会参加] 大会会場出発 → 東京都内宿泊施設  
8月25日(土) 宿泊施設 → 各自自主研修 → 東京駅 → 新山口駅
- 7 参加経費 自宅から新山口駅までの往復交通費と飲食費を除いて、その他の交通費、参加費、宿泊費等の必要経費は(一財)山口県教育会が負担します。  
\*新山口駅以外の出発駅については、個別に担当者にご相談ください。
- 8 募集人数 20人
- 9 参加申込 (一財)山口県教育会へ、電話(TEL 083-922-0383)で参加申込をしてください。  
\*申込者多数の場合は、初めて参加される方を優先して参加者を決定します。
- 10 申込締切 平成30年5月25日(金)
- 11 問 合 先 (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL) 083-922-0383 (FAX) 083-922-5768